

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所 グループホーム うぐいす

日付 平成19年2月2日  
特定非営利活動法人  
評価機関 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年  
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

### 外部評価の結果

#### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ホームを訪問した時、丁度10時のお茶の時間で、利用者は居室から食堂へ出てきた。途中洗面台に寄って一人ひとり手洗い、石鹸の泡を一杯手につけ、入念に洗っている。ノロウイルスの流行の時期なので、尚更気を配っている。席につくと、温かい牛乳が配られる。男性利用者の「じゃ、いただきますよ。」の挨拶で、一斉に牛乳を飲みながら職員全員も混じって皆でしっかり話しをするのが、このグループホームの恒例の時間帯である。

「一度ここに座ると300ccの牛乳とお茶を皆しっかりとお喋りして飲んでくれます。ゆっくりと時間をとって、職員や利用者同士でお話しをして、お互いの気持ちを行き交わせる場なんです」と管理者は言う。「なる程、皆さんよく話しをされますね」「そうです。ここは、皆さんの生活の場です。そして、利用者一人ひとりの不安や苦痛の負担を解消してあげ、安心して良い気持ちで過ごしていただくことに一番気を配っています。それが、利用者にしてあげる最大のことだと思っています」と話す管理者からは、ここで安心して生活していただきますという気迫を感じた。安心して、自分の親や配偶者を託す家族の気持ちも理解できる。

「ここに皆で居ると、安心しておられるよ。家と違って、ここでは気兼ねせんでもいいしね」と言ってくれながら、昔の苦労話やよく働いた事をそれぞれの利用者が話してくれた。

法人の敷地内も散歩コースとして最適である。少しずつ手をつないで、歌を歌いながら散歩に出掛ける。他にもリビングルームで、利用者同士グループに別れて色々なことをしている。食事作り、百人一首のカルタ取り等して、思い思いにゆったりとした行動をしている。

管理者・職員は認知症のことを良く理解し、コミュニケーションの大切さを実践している姿を見せてくれた。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

家族や地域に“たより”を配布し、ホームでの生活振りや認知症の理解のための情報を発信している。家族にはホームの運営の一部の役割を手伝ってもらい、一緒に取り組んでいる。この関係を維持しながらパートナーシップを築いていって欲しい。

また、地域の人からの相談も積極的に受けていただきたいと思う。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>「生活が基本。それ以外に何も無いでしょう。普通の生活の中で不安と不満、負担を取り除いてあげると、表情は良くなる。自分で意思決定が、発語が満足にできなくなっても、表情や仕草等でその人の気持ちは分かります。職員は、いつも利用者の少しの表情の変化にも気を配り、緊張させないように自然に声をかけをしながら自分の生活に充実感を抱いてもらえるような役割も分担してもらっている。その様子には、人生の先輩としての尊厳を保ちつつ、その中にも親しみのある職員の行動はほっとする和らぎが感じられる。</p>		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者の生活歴や経験等を知り、その人の事を出来るだけ多く理解するようにしている。その情報のアセスメントからケアプランを作成の上、出来る事の支援を行うことにより「生き生きと明るい生活」をしてもらっている。また、利用者の負担にならないように心掛け、不安や不満を察知した時、タイミング良く声かけしたりして安心して良い状態の生活を継続することが一番大切なケアと考えている。</p> <p>職員との充分な話し合いの時間を毎日持つ事も安心の一つ。食事のゆったりした時間、お茶の時間、寝る前のお茶の時間等で利用者の変化を感じ取る事もある。</p> <p>職員と1対1で心おきなく話し合える機会を得た利用者「今日は良かったね、何をしたの?」と話かける。「最近足が痛いので今日は良かった。足が痛いし歩けんぞ」「今日は分厚い靴下を履いたので良かったよ」と利用者が口々に「良かった、良かった」と云って、それぞれの気持ちを職員に伝えていた。これがこのホームの自信あるケアの一つである。</p>		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違え等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>気持ちの上で安心感が保てるような空間づくりに工夫されている。居室入口は好みの色合いの暖簾をかけて、その人らしさを表している。部屋の中はそれぞれの思い出や家族の写真や、馴染みの家具や品物で部屋づくりをしている。</p> <p>リビングルームはゆったりとしたスペースがあり、グループ別にカルタをしたり、歌を歌ったり、手芸をしたりして楽しむ事が出来る。手芸や編み針、塗り絵の道具や本等がいつでも使えるように準備してある。利用者の生活振りを写した写真が貼ってあり、アルバムもある。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>管理者と職員が、利用者の日々の生活が安心して過ごせるように、利用者の希望や思いを読み取れる力を養っており、ケアの質の向上に努めている。必要な情報や知識に対する資料はファイルし職員全員で回覧し、その情報を智恵として活用できるように常に前向きな気持ちをもっている。</p> <p>家族との関係も良好で、旅行の企画に参加してもらい一緒に実行するパートナーシップも養っているし、常に家族と情報交換や話し合いが出来ているのは望ましい限りである。地域とも運営推進会議を活用したり、近所に出向いたりした時に良い関係を構築して、認知症の理解や啓発の発信源としても活動を始めている。</p> <p>大きな母体に属していながら、管理者を始め職員で、独自の働きかけをして地域密着型のサービス提供の質の向上に貢献しつつあることは、近い将来大変楽しみを膨らましてくれるように感じた。</p>		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		